

悠久

第 40 号



台湾 台南 赤崁楼

本号の内容

- | | | | |
|--|--------------|----|------|
| ① 高校でのグローバル人材育成の現状 | 岡山県立岡山一宮高等学校 | 校長 | 新井和夫 |
| ② 『刺激に満ちあふれていた！未来へ繋げたい！～上海修学旅行～』
生徒の感想文より | 岡山商科大学附属高等学校 | 教頭 | 三田康成 |
| ③ 訪中記録 | 早島町日中親善児童訪中団 | 団長 | 中村勇 |
| ④ STUDENT EXCHANGE in 大連 2012
日本人生徒感想文 | | | |

● March
2013

高校でのグローバル人材育成の現状



岡山県立岡山一宮高等学校 校長

新井 和夫

イギリスのエコノミスト誌が描いた二〇五〇年の世界では、我が国の中間数年齢は五二・三歳となり、世界で最も高齢化が進んだ国となります。今の高校生がその年齢に達し、社会の中核となる時代です。世界の国々の過去の変化を見ると、人口構成が多産多死型から少産少死型に変化する人口転換期にあった時期には、労働力人口の比率が一時的に上昇し、経済が発展する「人口ボーナス」を受け取っています。二〇五〇年頃にこのような人口動態の恩恵を受けるのは、南アジア・アフリカ地域などになると考えられます。既に「人口ボーナス」後の人口動態の負の恩恵「人口オナーナス」を受けている日本のGDPは、現在でも世界経済の約六％弱に低下していますが、更に低下し二％を下回ると予測されています。その頃、中国でも高齢化が急速にかつ大規模に進行していきます。東アジアの経済力が急速に減退し、地域の活力が低下していくことが懸念されます。

学校においては、子どもたちが将来、平和で豊かに暮らせるための力を身につけさせるよう努めることが大切です。岡山一宮高校では教育活動のテーマとして、サイエンスとグローバル、社会貢献などをよく取り上げています。資源や労働力に恵まれない我が国は、引き続き科学技術立国を目指すべきであり、それを担う人材の育成が大切です。また、これまで以上に、世界を市場とした貿易等を活発にする視点が必要であり、グローバル化が進む時代にふさわしい力を身につけた人材の育成が大切です。ところが、日本の若者は内向きだと言われ、国際社会の中での活躍が危ぶまれています。中国や韓国の方がはるかに外国語を話せる学生が多く、世界に多くの留学生を送り出しています。日本の教育現場において、次代を担う若者が世界を視野に活躍することを期待した基礎やきっかけづくりがもっと必要です。

岡山一宮高校では、平成二二年度には台湾、平成二三年度には中国、韓国の高校と交流をし、平成二三年一二

月に韓国・慶尚南道の慶南科学高校と継続的な交流の協約を締結しました。国などのさまざまな事業を活用した成果です。

今年度は、岡山県の事業で中国江西省へ生徒五人、日中教育交流協議会の事業で中国大連市へ生徒二人を派遣しました。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの事業では、フィリピンへ生徒一〇人と教員二人、韓国へ生徒一五人と教員三人を派遣しました。また、外務省関係の事業でラオスへ生徒一〇人と教員一人、他の事業でオーストラリアへ生徒一人を派遣しました。三月末にはユネスコスクール関係でドイツへ生徒一人が訪問する予定です。一月中旬には韓国の高校生三二人と教員六人が来校し、ホームステイや日本の授業体験、英語での研究発表会などの交流をしました。また、四月にはアメリカ総領事館の協力による講演会、六月にはハワイの小学校教諭の来校、日本国際協力センター（JICE）の協力による研修会、七月には中国江西省政府関係者の来校、十一月には元青年海外協力隊員を招いての国際理解シンポジウムを開催し、二月には東京島市にあるJICA中国国際センターを生徒五六人が訪問しました。県教委の事業「英語で理数」を活用し、英語による講演会や授業の実践などもしています。これらの活動が評価され、国際協力機構（JICA）が主催する「グローバル教育コンクール2012」において、団体奨励賞を受賞しました。

日本や中国、東アジアには、現在、領土問題や大気汚染などの課題もありますが、今世紀の半ばにはエコノミスト誌のような厳しい状況も予測されます。その時代を担う日本の若者が、他国の人々とともに平和で豊かに暮らせるよう、国際理解教育の充実やグローバル人材の育成をもっと加速して進めるべきだと思います。そして海外交流の機会をもっと高校生などの若者に与えられるよう取り組むべきだと思います。

『刺激に満ちあふれていた！ 未来へ繋げたい！～上海修学旅行～』

岡山商科大学附属高等学校

教頭 三田 康成



蘇州・虎丘、六和塔を背景に記念写真

本校は、平成十四年度より中国語を開
設し、同時に中国からの留学生受け入れ
を始めました。毎年受け入れは途切れる
ことなく続きます。

中国への修学旅行は、五年前より計画
を始めました。東京、オーストラリア、
中国の三コースからの選択です。最初の
二年間は、中国国内の情勢などにより、
成立しませんでした。三年前から毎年
実施できています。それは、七名のみの
参加でも実施に踏み切り、旅行後に一年
生にその良さをプレゼンテーションする
ようにしたからです。翌年は三十八名、
今回は四十二名とさらに増えました。大
規模な半日デモがあり、尖閣列島をめぐ
る日中関係の悪化が懸念される中でも、
参加が増えたのは、こうしたとりくみが
あったからであると言えます。

しかしながら、不安な点がありました
ので、随時、旅行取扱業者と情勢を分析
し、中国語担当者は中国国内と連絡を取
り合いながらとりくみを進めました。今
回の平成二十四年十一月十九日から三
泊四日、上海・蘇州の修学旅行について、
生徒、引率教員の感想をご紹介します。

生徒の感想文より



獅子の頭を撫でると・・・

「また行つてみたい国」二年 前原 聡行

私が中国へ修学旅行に行った理由は、日
本では学べない文化を学びたかったからだ。
私達が中国に行く前は反日デモが起きて
おり、無事修学旅行へ行けるとわかったと
きは嬉しかったが、正直とても怖いとい
うイメージはなかなか払拭できなかった。だ
から、私は中国に行く前に少しでも中国に
ついての知識を深めておこうと、様々なこ
とを調べた。その結果、反日デモは、局
的にしか起きておらず、私達が行く上海は
大丈夫だということがわかったので安心し
て出発することができた。

私が中国で一番楽しみにしていたのは、
食事だ。だが、現実には、想像していた中国
料理とは違い、そう甘くなかった。中国の
食事は、私の口に合わず、始めはあまり食
が進まず、辛かったのを覚えている。中国
の食文化と日本の食文化を比べたところ、
私は、やはり日本の食事が一番だと実感し、
日頃感じることがなかった日本への愛国心
をも感じることができたことも良い思い出
の一つだ。

中国で驚いた事は、他にもあった。上海
全体の建物が非常に高かったり、道路の交
通量がとても多かったりしたことである。

「中国語に意欲」二年 細川 唯

日本とは違うさまざまな出来事を体験して
いく中で、私の価値観も変わり、最初に抱
いていた中国への恐怖心もなくなった。

私は、まだ中国語があまり話せず、今後、
中国の人と関わったときにうまくコミュニ
ケーションが図れるか不安は残るが、また
行つて見たい国の一つにもなったことは間
違いない。そして、無事に日本に帰ってき
た時、修学旅行に行かせてくれた両親、学
校の先生、中国のガイドさん、中国でお世
話になった人々に感謝という一言でいっ
ぱいになったのであった。



飲茶料理はおいしい！

ベコミニ
ケーション
も徐々にと
れ始め、う
れしさと同
時に、日本
に帰って、
さらに中国
語の勉強を
一生懸命や



茶房館にて中国茶の試飲

ろうという意欲が出てきた。日本ではできない経験を、日本では抱くことがないであろう感情を抱き、非常に多くの刺激を受けた修学旅行だった。

「異国での刺激」 二年 新 千穂

今回の修学旅行は私自身に多大な影響を与える素晴らしい体験になった。

最初に中国へ行くことを決めた理由は、まず世界の中でも急速に発展している中国の経済社会を自らの目で確かめたかったからである。また、同じアジア諸国の中で「日本と似ている文化・文明」を体感したかったからである。私は、今まで海外へ行ったことがなく、初めて国外へ出るということへの相当な不安と未知なる体験への期待を胸に抱き、ことばでは言い表すことができない複雑な心境で日本を飛び立った。

いざ中国に到着し、目の当たりにしたのは「世界を代表するビジネス街」だった。空港からの道中で、立派な高速道路や高層ビルが次々と目に入り、その景色は日本の東京を上回ると言っても過言ではない程であった。また、行った先々の飲食店では出てくる食事の量が多かったことも印象的であった。私の経験上、日本の飲食店の料理は少し物足りないことが多く、残すこともほとんどしたことがない。家庭での食事の際も、出された物を残すことは暗黙の了解でタブーとされていると認識している。しかし、中国では食事を出す方は食べる側が

満足する必要以上に多い量を出すということ、また食べる側は多少残すことが礼儀とされるということがマナーであり、事前学習で学んだことを肌で感じた。

中国と日本は同じ「箸文化」であるが、日本では自分に合った長さの箸を使用し、箸を使わない時には横に置く習慣がある一方で、中国では日本より十センチ程長い箸を縦に置いて使用するという点においても違いが見られ、少し戸惑ったことを覚えている。

私は、旅行の途中で目に痛みが生じ、病院へ行くという最大のハプニングに見舞われた。みんなとは別行動になり、公共交通機関を利用する機会があった。タクシーやバス、地下鉄の運賃は比較的安く、その中でも地下鉄では、車内のモニターで目的地までの所要時間や速度が分かり、日本以上の文明の発達を感じた。

上海での四日間は、刺激に満ち溢れたものであったが、そのような中でも街を歩きながら、日本でも馴染みのある「マクドナルド」や「吉野家」などを見かけた時には、ほっこりとした気持ちになった。単なる楽しいだけの旅行ではなく、両親から離れて生活することへの寂しさを感じながらも、日頃あまり表へ出すことができない「他者への感謝と配慮」、さらに自分たちで考え、自分たちで行動する「自主性と積極性」を養うことができたように思う。

帰国後、自分自身の視野の狭さや、日本と中国のそれぞれの良さをあらためて実感した。日本人ならではの他人への配慮と中国人の持つ積極的な姿勢を併せ持った人間を目指したい。

最後に、今回の修学旅行での貴重な経験をもとに、そこから感じたことを忘れず、自身への未来へと繋げたいと思う。

「もつと友好関係を」 二年 姚 曉宇

私は中国・青島からの留学生です。上海には行ったことがなく、中国コースを選びました。

この四日間の修学旅行では、一度日本で生活をしてから、中国に行った自分は、自然と頭の中で日本と比べるようになっていました。表面上は、中国は生き生きとして、元気がもらえます。そのため、今の中国は発展がすごいスピードで進んでいるため、文化、経済、色々な方面から、世界に注目されています。発展すればするほど、他国を学ぶところがたくさんあると思います。留学生としての私の一番の望みは、日中にもっと友好関係を築いてほしいことです。そのためには、私達二十一世紀の若い世代は、日中関係、世界の平和、発展に頑張らないといけないと、今回の修学旅行を通して、思い起こしました。



豫園にて記念写真

修学旅行を終えて

中国語担当 張 偉麗

私は初めて引率として参加しました。旅行前は、尖閣諸島の反日デモが、まだ完全に収まっていない状態。他校は中国コースを相次いでキャンセルしました。さすがに中国人の私もいささか不安はありました。そのような状況の中で、四十二名の生徒が参加してくれました。私は、責任を感じたと同時に、すごくうれしかった。海外に送り出してくださった保護者の皆様の判断に敬意を表します。

初めて中国に行って食べる食事、特に上海料理の味が薄く、生徒達の口になかなか合わないのが結構ありました。それにしても皆は毎日元気で、好奇心をいっぱい示してくれました。私は、長く日本に住んでいるせいか、日中の違いを知りながらも感じなくなっていました。しかし、彼らは小さなことに気づき、その一瞬を捉えていました。その小さな発見に、思わずシャッターを切ったり、不思議に思ったことをつぶやいていました。先生やガイドさんに質問し、理解しようという姿勢を見て、本当に中国へ連れて行ってよかったなと思いました。生徒のこの感受性の強い時期、異文化を体験し、視野を広め、そして、比較することによって、自国の良さを知り、愛国心を増すと同時に、これから自分は何かに向かって頑張ろうという気持ちになったことは、修学旅行の目的達成ではないでしょうか。心配していたことは何にも起こらず無事に帰れ、生徒達がいっぱい見て、感じてくれ、そして、日中の歴史問題がある今日に、行ってよかったとつくづく思いました。



記録

早島町日中親善児童訪中団 団長 中村 勇

早島町日中親善児童訪中団は、八月十七日～二十日の三泊四日の日程で上海市静安区威海路第三小学校（以下「威海路第三小」という）との交流のため訪中しました。

今回の訪中の際も上海市人民対外友好協会（以下「友好協会」という）に受入をして頂き、色々とところで特別なお心使い、「配慮をして頂きました。また、威海路第三小では、手厚いおもてなしを受けました。

この交流事業は、実行委員会形式で実施して、隔年で相互訪問しています。訪中の募集は、五年六年生を対象にしています。平成七年度から行われており、今回七度目の訪中でした。参加者は、小学生五年生女子二名、六年生男子四名女子五名、校長先生他三名の先生、保護者二名の計十六名でした。

岡山空港から出国して浦東空港から入国しました。荷物を受け取る所へ来日、訪中の際に何度もお会いしています。友好協会の朱政寧さんが出迎えてくださいました。

浦東空港からは、専用バスで昼食会場の海鷗舫へ移動しました。昼食のあと、東方明珠タワー展望室に別のエレベーターで待つことなく上がることができました。眼下にはさらに都市化が進む上海市の街並みや黄浦江を進む船舶などが見えました。東方明珠タワー地下にある中国の交通や生活の様子がわかる上海市歴史発展陳列館も見学しました。

歴史館をあと宿泊する東湖賓館にチェックインしました。ロビーでは、ホストファミリー代表の方、以前来日された成先生、黄先生が待っておられました。握手したり、校長先生と私へ花束を頂くなどして、温かい歓迎の気持ちで伝わりました。

その夜は宿泊するホテルの一階にて友好協会主催の歓迎会でした。友好協会から日本処副処長さん、朱さんが出席されました。あいさつ、歓談のあと、訪中団の皆に友好協会からのプレゼントを頂きました。

二日目朝、九時前に東湖賓館を出て、威海路第三小を訪問しました。まず平素の学校活動をスクリーンで見せていただきました。そのあと威海路第三小児童によるダンス、歌、琴演奏などいくつかの出し物をみせてくれました。



リコーダー演奏

その合間に早島小の児童は、リコーダーで「ふるさと」を演奏し、「まつりか」という中国の曲を日本語と中国語で歌いました。

お互いの出し物が終わり、早島小の子どもたちは、校内見学をして、それぞれのホストファミリーに連れられて出かけて行きました。それぞれ、食事や観光地などに連れて行ってもらいました。

訪中団の大人は、威海路第三小教職員方々による歓迎会をしていただき、上海中心部の商店や南京歩行路を観光しました。

三日目朝、九時頃の予定でホームステイから東湖賓館に戻ってくる子どもたちを玄関で迎えました。子どもたちは、ホストファミリー車で順次送ってもらい、その受入のホストファミリーと順次記念写真を撮り、それぞれに別れを惜しみました。



威海路小の出し物



集合写真

そのあとは、倉敷美観地区に似ている朱家角、御茶屋さん、豫園商城に行きました。夕食は、永和大王というチェーン店で辛い高菜と目玉焼きが入った雪菜紬麵、豆乳、揚げパンでした。三度目の訪中にして、初め中国の麵を食べることができました。

夕食後は、ナイトクルージングでもきれいな夜景を楽しみました。四日目ホテルを出発する際、以前来日された威海路第三小の黄先生がわざわざホテルまでお見送りに来てくださいました。

午前中は、上海動物園に行き、午後は博物館に行きました。昼食会場に向かうバス内で、朱さんが「これから日本料理店に行きます。皆さん、そばがいいですか。」と聞いたので、日本料理店でそばという「和そば」と思

いました。上海賓館に着き、最上階の日本料理店に入りました。注文していたそばが、出てきましたが、和そばではなく、焼きそばでした。和そばを期待していましたが違ってしまいました。これもまた文化の違いです。

龍楊路駅から浦東空港までリニアモーターカーに乗りました。最高時速四三二kmで結んで、乗車時間は七～八分ほどです。

帰りの飛行機便は、夕方の雷雨でダイヤが乱れていたためか九十分遅れの出発となりました。午後十一時に早島小学校に到着しました。保護者、実行委員の方、先生方が待っていていました。

こうして、私自身は訪中団長として、三人の我が子、それぞれともに三度上海市を訪れ、威海路第三小の先生や児童とあたたかい交流させていたできました。

今回の訪中は、日中関係が揺らぐ中でしたが、全く影響なく無事に交流を済ませて帰国できました。今回の訪問は、現地での滞在費用をすべて友好協会にて負担していただき、威海路第三小とともに行き届いた手厚いおもてなしをして頂きました。そのおかげさまで、学校間の交流、子どもたちのホームステイを中心とした中国訪問体験の目的を十分に果たせました。

今回この四日間で、大人も子どもも色々の場面で、文化の違いを感じたことと思います。しかし、国や文化は違っ

ても相手を思い、温かくもてなすという気持ちは共通であることを思います。今後とも両校の交流が継続し、交流した子どもたちが将来日中友好の架け橋となることを期待しています。

参加児童の感想文

早島小学校六年 中村友美
私は、あまり行きたくありませんでした。でもお父さんに「良い体験ができるから」と何度も言われたので、行くことにしました。(途中省略)

二日目、上海市威海路第三小学校に行きました。交流会では、その小学校の人たちが色々な踊りや琴演奏などをしてくれました。私たちは「ふるさと」をリコーダー演奏し、「まつりか」を日本語と中国語で歌いました。

そのあと、女の子の家に一緒に参加した友だちとホームステイをしました。まず家族の人とのあいさつを中国語でしました。そして、ご飯を食べに行きました。おいしかったです。食べている時に家族の人にもっと食べていいよというジェスチャーを何度もしてくれましたが、お腹一杯だったため断るのに困りました。しかし、私たちにとても気を遣ってくれているんだなと思いました。

昼食の後、水族館に行きました。いろんな動物がいました。すごく楽しかったです。

そのあとに家に戻って、中国語や日

本語でいろんなことを話したりして、とても楽しかったです。夜ご飯を食べた後にお風呂に入って寝ました。

翌朝ごはんを食べたあとに女の子にお手紙をもらいました。私たちもお手紙をあげました。ホームステイは楽しかったです。(途中省略)

この四日間を通して中国の文化に触れることができました。中国の人は、すごく気を遣ってくれました。日本の人も気を遣うけれど、気の遣い方が違うところがあります。また思いやりの仕方も違うと思いました。それが文化や生活習慣の違いだと思います。しかし、相手を思いやる気持ちは、同じだと思います。

いろんなことが学べ、いい経験ができてとてもよかったです。これも家族のおかげだと思っています。今では中国に行つてよかったなと思っています。また機会があれば行つてみたいです。



お別れの握手

2012 STUDENT EXCHANGE in 大連

日本人生徒感想文

前号に引き続き、昨年大連を訪問した高校生の感想文を掲載します。紙面の都合で一部割愛しているところがあります（編集部）

小さな灯

川上 意（岡山一宮高等学校 2年）

最近、尖閣諸島問題、スパイ疑惑など様々な中国についての悪い情報が日本国内では流れている。しかし、それは中国全体が悪いというわけではない。中国の国民すべてが悪いと言うことができないはずがないのである。それにもかかわらず、中国人は悪い奴だとかうるさい奴だと言うひとがいることが現実になっている。このような状況の中、今僕に何ができるのかということ考えた結果、この研修に参加したいと思ったのだ。

中国に行くことが初めての僕は全く新しい世界に踏み込む期待と不安でいっぱいだった。そして、様々なことを考えていたうちに飛行機は上海空港に到着していた。その日はリニアモーターカーに乗った後に国内線で移動というスケジュールをこなしたことで疲れてしまい、すぐに寝入ってしまった。

次の日と次の日の出来事は僕の心にとっても大きなものを残してくれた。ホストファミリー、友達のパディ達、様々な記憶をたどれば見えてくるものがある。僕がホームステイしたのは李敬麒君の家族だった。敬君のお父さんは約600km離れた地で生計を立てるために働き、お母さんは夜遅くまで働きあまり敬君とは会えないらしい。僕が泊まったのは敬君のおじさんの家であった。夜ご飯は家族みんなで食べ普通に食卓に向かって会話をすると、この瞬間に僕は日本人が忘れていた何かが見えた気がした。少し、そんなことに気を取られて

いたら、敬君に「大丈夫ですか」ときこなくなってしまう。優しく言われてしまった。「だいたいようぶ、だいたいようぶ」と返事をする敬君は嬉しそうにした。そのあとは、公衆のシャワー浴場へ行き疲れた体を流し、帰るとすぐに眠ってしまった。

僕がこの研修を通して学んだことは、人は人、国が変わろうが人の心はどこかで共通する部分があるということである。もし中国の人がすべて悪い人であれば僕は悪い感情を抱いていただろう、しかし敬君や敬君の友達に一度も悪い感情を抱かなかったのだ。逆に彼らからは学ぶことばかりであった。最後に聞いた言葉、「マタアイマシヨウ」は僕の心に小さな灯を灯した。この灯を日本に持って帰りやがて中国まで届くような光へと変えていきたいと思う。

川部 茜（西大寺高等学校 2年）

私が中国に行く前、そのことを友達などに伝えると、「なんでわざわざ中国なんか行くん？」「こわくないの？」「大丈夫なん？」など多くの意見が批判的でした。私は、現在世界の中でも経済発展の著しい中国をこの目にしたいと気持ちと共に、心の中では多少の不安を抱えていました。なぜなら、私にとって中国という国に対する印象は、はっきり言ってあまり良いものではなかったからです。それは、日本で報道されている中国のよくないニュースなどに影響を受けすぎていたからだと思います。しかし、実際に現地に行ってみると、私の印象は大きく変わりました。

初日に中国に着いても、空港などの雰囲気や漢字表記、街に出てみると日本の企業の店などがたくさんあって中国にいるという実感はあまり湧きませんでした。しかし、

し、全体的に建物の高さが高いことに驚きました。またこの日一番の驚きは、リニアモーターカーに乗車したことです。日本にもまだないこんなに速い乗り物が中国にあるということ、磁気で浮上させているということに驚きました。食事の際、楽しみにしていた本場の中国料理を口にして思ったことは、自分が思っていたより変わった食材もなく、味付け以外は特に日本と変わりはなく、美味しく頂けた事でした。

私は今回の交流で多くのことを学びました。行く前とは違って実際に目にする事によって中国への印象は大きく変わりました。報道だけでは悪いとしか見えないううに感じますが、今回は良いところも悪いところも見えた気がしました。そこから固定観念にとらわれず、実際に目にする事の大切さを知りました。そのほか、出会いの素晴らしさを改めて知ることが出来ました。中国のパートナーの子、両親、友達はもちろん、団のみんなと出会えてよかったです。一緒にいて楽しいだけでなく、みんなの大きな意志や目標は私を成長させてくれた気がします。今回だけでなくこれから先も付き合っていく仲間がたくさんできて本当に嬉しいです。これから先もっと勉強していろんな国に出向いてたくさんのお会いがあるといいなと思いました。この事業に参加でき、貴重な体験が出来たことを本当に嬉しく思います。また、行かしてくれた家族や、この事業に携わって下さった皆さんに感謝を忘れず、今回の経験を活かし、成長していきたいです。

川本 雄大（岡山一宮高等学校 2年）

僕がこのSTUDENT EXCHANGE in 大連に申し込んだ目的は、ホームス

テイがあるということと現在急成長している中国を自分自身の目で見てみたいとおもっていたからです。そのため、僕は一番ホームステイが楽しみでした。

しかし、大連について一日目の夜、冷静に明日からホームステイなのか。と考えると急に不安が増し、そのペアの子と仲良くなれるか、コミュニケーションをうまくとることができるのか。などの、たくさんの不安が心をよぎりました。

しかし、二日目ペアの子と実際に会ってみると、思いのほか親切で日本人の性格をよく理解しあまり大きな声で話さないことや、パーソナルスペースが近すぎないことなど、中国では当たりまえのことを日本人に合わせてくれていたのでその優しさにとっても驚き感動しました。

二日目の大連第一中学校での研修の後は、日本からきた、男子4人と中国のホームステイを受け入れた4人とで、中国のゲームセンターに行きました。そのあとは、李くんオススめのバイキングに富岡くんとそのペアである王さんと一緒に行きました。その後、李くんの家に行きました。李くんは、驚くことに良い高校に行くために親元を離れ一人でマンションを借りて暮らしていました。なので、中国の家庭の雰囲気を経験することは出来ませんでした。が、あまり気を使わないで楽しく夜遅くまで話したり遊んだりできアル意味とてもよかったです。

三日目の研修のあとは、また二日目と同じメンバーでカラオケに連れて行ってくれました。日本の歌や中国の歌を交互に聞き、外国にいるんだなって改めて感じることができました。また、海外にこんなにたくさんの友がいるなんて幸せだなんて、たそがれてしまいました。中国は、日

本よりも学歴社会の文化が強く中国の学生はいわゆるガリ勉だと思っていたのですが、よくカラオケやゲームセンターで遊ぶそうなので、日本の学生とあまり違いがないんだなと思いました。次の日の朝、李くんが毎朝髪をセットしている美容室に連れていってほしい、女の子からモテモテになるという中国流の髪をセットしてもらいました。かなりのボリュウムに盛られて、ワックスべたべたでした。そして、モテモテになりませんでした。その後、李くんとお別れしました。とてもさみしく、悲しく、なんか不思議な気持ちになりました。

僕は、ホームステイでたくさんの友を見つけることが出来ました。また、中国の学生は、勉強熱心でかつ楽しむときは、楽しんでる。さらに、おもてなしの心がとても良く日本人のことをよく理解してくれました。そして、中国という国が大好きになりました。

今後は、僕も中国人のように勉強と楽しむことの両立をしようと思います。また、中国の文化、中国の言葉、中国人の性格をよく理解しようと思いました。

今回の、中国訪問を通して自分の価値観や考え方がいい方向に変わりました。また、将来、僕は海外でODAにかかわる仕事をしたいという思いが強くなりました。この、STUDENT EXCHANGE in 大連は、本当に楽しかったです。本当にありがとうございました。

富岡 久照（岡山芳泉高等学校 2年）

行ったことのない世界に足を踏み入れることは、何度経験しても胸が高鳴ります。今回の研修では中国に行き、この感覚を感じることができました。この研修では今ま

でとは違い、ホームステイで人家に泊まりました。これは僕の中ではすごく大きな意味を持ちました。

他にもここに記しきれないほどの事を学びました。

研修初日。飛行機で上海に行き、リニアモーターカーを体験しました。ここで現地の学生と交流でき、いいスタートだったと思います。大連ではホテルのクオリティに驚きましたが、良い夜を過ごしました。

研修2日目。大連第一中学校にて現地の学生と交流。最初はやはり緊張感があり、気まずい空気が漂っていましたが、時間が解決してくれたように思います。体験授業では日本と同じような形式でしたが、大連の学生たちは日本人と比べてとても積極的に発言していましたし、僕の普段の授業の受け方を見直す機会になったように思います。その後は歓迎会を開いてくれました。

日本の歌を披露してくれたのは驚きでした。一方、僕たちの出し物では練習不足が露呈され、クオリティの低いものになりましたが、要旨が伝わっていたのでまずまずの評価で良いと思います。その後、各グループに分かれて市内を見学しました。僕たちは男の子みんなが集まってゲームセンターに行きました。ここでは太鼓の達人、イニシャルDなど、日本の機械が目立ち、日本のゲームの質の高さを実感しました。

夕飯は川本くんのペアとバイキングに連れて行ってもらいました。ここでは戻ってしまうほどどんなペアの子たちが持ってきてくれて、うれしさの反面、キツさ反面という感じでした。その後、王君の家に行き、オリンピックを見ながらずっと語りました。

研修3日目。この日の旅順は大雨。バタバタしててじつくりとみることはできま

せんでしたが、ここは言ったことに意味があると考えます。その後大連に戻り、今日はペアの子たちとカラオケに行きました。このカラオケボックスは規模がすごく大きく、綺麗でした。日本の歌もたくさんあり、歌うことが出来ました。「世界に一つだけの花」はみんなが歌うことができ、団結を感じることが出来ました。中国では未成年でもお酒が許されているので、少し飲ませてもらいました。

研修4日目。ステイ先のペアと別れの日。現代ではメールや電話などの通信ツールが普及しているため、もう会えない、という感覚ではなく、次会うまでお互いに頑張っていこう、という感じでした。なので、笑って別れることができました。その後上海に戻り、上海環球金融中心の展望台に行きました。ここでは上海の高層ビルを一望でき、下は透けていて解放感がすごかったです。夜は上海雑技団を見に行きました。中国の雑技団を見たのは初めてで、衝撃的でした。まだ小学校低学年ほどの子ども達も必死でがんばっていて、感動しました。

研修最終日。朝から上海市内を見学しました。豫園では歴史を感じ、豫園市場では中国の現状が垣間見えました。昼食は四川料理で、涙が出るほど辛く、一番印象的でした。

この研修で学んだことは僕の中で非常に大きく、今後とても影響してくると思っています。この研修で学んだことを、日常、そしてアメリカでどう生かすか、そこが重要だと考えています。素晴らしい仲間、スタッフとともに5日間を過ごせたことはいい思い出になりました。これからそれぞれ自分のステージに戻り、僕は自分の目標に向かって頑張っていこうと思います。

医療福祉の資格40年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科(保育コース・幼保コース)

第1看護科 第2看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866

電話(086)275-6846

FAX(086)275-0018

●吉井川キャンパス

介護福祉科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610

電話(086)944-6911

FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。

中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース

15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!

※会社や団体への出張講座、子供向けコース・太極拳コースも開講中!

・お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601

岡山市北区津島京町2丁目10-1

TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947

<http://www.osu.ac.jp/koushi/>

新HSK試験5級をめざす

長期生コース

中国語講座(2013年度前期)
(2013年4月~2013年9月)

子供向けコース(全15回)

毎週土曜日(11:00~12:00)

太極拳コース

毎週木曜日(14:00~15:00)



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科
子ども学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科

●保育学科

●英語コミュニケーション学科

●情報ビジネス学科

●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993

<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

○スーパー選抜クラス: 東大・京大・国立大学医学部等の難関大学への進学を目指します。

○選抜クラス: 国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報課

TEL (086)256-8527 FAX (086)256-8526

愛され続ける価値がある。

kanko®



共感から感動へ。
ここに響くユニフォーム。

ozakiは、(財)全国高等学校体育連盟を通じて学校に係わる体育・スポーツ活動をサポートしています。
(公財)日本中学校体育連盟



(財)全国高等学校体育連盟協賛
インターハイ協賛



(公財)日本中学校体育連盟推薦
(公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

尾崎商事株式会社 岡山営業所

〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

kanko®
カンコー・スクールウェア
カンコー・スポーツウェア

ELLE

MICHEL KLEIN

Sprinter

Reebok

尾崎商事株式会社

本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F

ozaki お客様相談室 **0120-712983**

9:00~17:30 / ただし土・日・祝日は除きます。(携帯・PHSからもご利用頂けます。)

<http://ozaki.jp/>



JQA-QMS119
JQA-EM0893
尾崎商事株式会社



赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域

国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、
語学・グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオプティカルカレッジ

今年も全員就職が内定しました！

天職が見つかる「学校説明会」



5月25日(土)
6月22日(土)
7月13日(土)
7月25日(木)
13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ▶ 本校独自の特待生制度 奨学金制度があります ▶ 高校卒業生コース (3年制) 短大卒業生コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう！

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎！ご一報ください。

＜費用＞ 入学金…3,150円(消費税込)

☆協会会員・継続者は免除☆

受講料…31,500円(消費税込)／全24回

教材費…実費(2,000円～3,000円程度)

＜申込方法＞ 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター(岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで24周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 岡山台北定期便が就航(4/3～)
- 中国東方航空は、上海へ
- 大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー(上海・台北・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

観光庁長官登録旅行業第1816号 ◎JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第40号

発行：平成25年3月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社